

『人と人とのコミュニケーション』

小城市立三日月小学校 6年 永江 紗妃

みなさんは、「あいさつ」この一言をどのように思いますか。私は、人と人と仲良くするために一番大切なことだと思います。

コミュニケーションとあいさつはつながりがあると思います。コミュニケーションをとるためには、人と仲良くなる必要があります。そこで、みなさんはどのような言葉をかけますか。私だったらはじめは自己しょうかいをします。そのとき、最後に「よろしくね！」その一言を付け加えると、相手の人は、「この人とだったら仲良くできるかも。」と思う人も多いと思います。そうしてたくさん友達をつかって、たくさんの人とたくさんコミュニケーションをとっていく事ができます。

「おはよう」「こんにちは」「こんばんわ」など日本にはたくさんの「あいさつ」があります。この「あいさつ」はまほうの言葉だと思いませんか。だって、一度「おはようございます。」と声をかけて、次また会ったときには相手の方から「おはよう」と声をかけて下さるかもしれせん。そのときは心が少しあたたまるような気がします。とにかく、すごくうれしいですよ。

しかし、コミュニケーションができなくなった時がありますね。それは二〇二〇年二月、新型コロナウイルスのえいきょうです。多くの人々が悲しんだと思います。その時に、声をかけたりすると、少しは笑顔になってくれる方もいたと思います。しかし、コミュニケーションをとるのすら禁止されたのです。ひまつがとぶからです。そのせいでこの「日本」からはコミュニケーションがなくなった、といってもいいかもしれせんでした。コミュニケーションをと

ることはできません。でも、あいさつはできます。しかも、声を出さなくてもいいんです。それは、「おじぎ」です。私の学校では「松っちゃん放送局」というものがあります。給食の時間に教頭先生がする放送です。そこで教頭先生はおじぎの事について語り始めました。おじぎはあいさつと同じようなもの、人の心をあたたくさせてくれるもの。私は「あいさつは言葉じゃなくても伝わるんだ」と思いました。

それから私は通学路を歩いていた方におじぎをしました。すると相手の人は笑顔でおじぎをかえしてくれました。そこで私はまた、新しいことに気づきました。「あいさつは言葉じゃなくても伝わる。しかも人を笑顔にする事ができるんだ」そう思いました。それからは、自分から積極的におじぎをしていました。でもいつからか、「これに言葉をつけくわえたらもっといいあいさつになるんじゃないか」と思い始めました。きん急事態せん言が解じよされてから私はすぐ行動に移りました。でもまずは学校内ですれちがったりする先生たちにあいさつをしていこうと思いました。でもマスクをしているので少し大きめに「おはようございます。」と言いながらおじぎをしました。すると先生も

「おはようございます。」

とかえしてくれました。私はなんだかうれしくなりました。そして通学路を歩いていたおばあさんに「こんにちは」と声をかけると「こんにちは」とかえしてくれました。私はこれを『あいさつの輪』だと思えます。あいさつ、この一言でたくさんの人と仲良くなれるのです。

みなさんも『あいさつの輪』を広めましょう。